

SDGs 達成に向けた「日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」教材



# 岐阜県神戸町の山王まつりから考える 大麻の過去と未来

## 第1章 | 祭りと大麻

### 山王まつりとは？

山王まつりは、岐阜県の神戸町の日吉神社で、5月3日(試楽)・4日(本楽)におこなわれる祭りです。源頼朝が建久年間(12世紀末)に神社の領地を寄進した際に、七基の神輿を奉納したこと等、起源は諸説あります。「神戸山王まつり」として、昭和53年(1978年)7月19日に岐阜県重要無形民俗文化財に指定されました。

この祭りの中心は、7つの区の七基の神輿の全力疾走です。これは4日の午前0時からの朝渡御(あさとぎょ)と午後5時からの還御(かんぎょ)でおこなわれます。朝渡御では、日吉神社から参道の先にある御旅所(おたびじょ)と言われる神輿を鎮座しておく場所まで神輿が担がれ、還御では、御旅所から日吉神社へ担がれます。朝渡御は、「神戸の火祭り」とも言われており、松明に囲まれた中、神輿が担がれます。

松明は竹を軸にして、可燃部には大麻の幹が束ねられます。茎は枝葉と皮を取り除き乾燥した状態で、縄で3箇所、それぞれ7・5・3巻きに固定されています。

出典：日吉神社 <http://www.hiyoshi-jinja.jp/sannou/index.html>



画像:朝渡御



画像：本殿

### 大麻文化

山王まつりには、大麻の麻幹(オガラ:枝葉と皮を取り除いた幹)が使用されます。山王まつりに限らず、多くの神社の神事では大麻が用いられますが、麻幹ではなく精麻(セイマ:幹から剥がした皮を繊維状にしたもの)が用いられます。神事の清めの際に神職の方が用いる祓串(はらえぐし)の棒の先には、紙を折った「紙垂(しで)」と「精麻」が結んであります。

日本では主に繊維素材として大麻が用いられてきました。そのため、『麻』という漢字は、アサの茎を2本並べて繊維を剥ぎ取る様子を表しています。

繊維を取った際に出る大量の麻柄は、かつては松明としてよく用いられました。その名残として、神戸町の山王まつりを始めとした、長野県と同祖祭りや愛媛県の柱祭り等で、麻幹の松明が使用されます。その他、世界遺産に登録された岐阜県の「白川郷・五箇条の合掌造り集落」の茅葺屋根の最下層には、通気性が良いため、麻幹が用いられています。

出典：日本人のための大麻の教科書\_大麻博物館  
：学研新漢和大字典\_藤堂明保・加納喜光編集



画像：松明



画像：祓串

出典：<https://www.ise-miyachu.net/SHOP/gshg-ah-s.html>

## 第2章 | 大麻の特性と利用

### 大麻とは

アサ科である大麻は、南アジアから中央アジアが原産と言われ、古代に日本に入り、栽培されました。国内で自生しているものは、野生化した帰化植物です。外来生物法では、明治以降に人為的に持ち込まれた生物を中心としているため、大麻は外来種とは認識されていません。大麻と関係のある生物として、アサカミキリという昆虫がいます。国内では、本州、四国、九州に分布しており、戦前には大麻の害虫として知られていましたが、大麻栽培の減少とともに生息数を減らし、絶滅の危機が増大している種（絶滅危惧2類）に指定されています。

大麻の特性として、オスとメスで株が分かれる雌雄異株であり、茎はまっすぐに直立し、高さは1～2.5 m程まで成長します。神戸町では3月末に種を蒔き、7月末から8月初頭に刈り取りをします。その神戸町の大麻畑では、THCの濃度が高い大麻が繁殖していないかを毎年調査しています。

大麻で問題になるTHC(テトラヒドロカンナビノール)は、幻覚等の精神作用を示す成分であり、化学合成されたものは麻薬として規制されています。米国や欧州で薬用として、大麻から抽出されている成分はCBD(カンナビジオール)という成分で、一部の疾患への治療薬として承認及び使用されています。

出典：新分類 牧野日本植物図鑑 牧野富太郎

：愛知県 <https://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/pdf/animals/species/koncyu/%E3%82%A2%E3%82%B5%E3%82%AB%E3%83%9F%E3%82%AD%E3%83%AA.pdf>

：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/000941499.pdf>



画像：大麻

出典：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/dl/taima.pdf>



画像：麻の実

出典：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/dl/taima.pdf>

### 大麻を取り巻く流れ

日本における麻薬の取締りは、1857年の日蘭追加条約、1858年の日米修好通商条約にアヘンの輸入を厳禁する規定から始まります。明治、大正と麻薬に関する法律が整備されていく中で、1930年に旧「麻薬取締規制」において大麻が麻薬に指定され、麻薬として大麻の規制がおこなわれました。1945年に「麻薬原料植物ノ栽培・麻薬ノ製造・輸入及輸出等禁止ニ関スル件」により、栽培が禁止になりました。しかし、麻の需要に支障をきたしたため1947年に繊維と種子の採取を目的とした栽培のみを認める「大麻取締規則」が制定され、翌年には現行の大麻取締法が制定されました。

規制後、大麻の栽培には免許が必要となりましたが、栽培面積及び栽培者数は一時期増加しました。しかし、大麻の繊維の需要減少もあり、1952年の4916haの大麻栽培面積、1954年の37313人の大麻栽培者数をピークに減少が続きました。2020年時点では、栽培面積は7ha、栽培者は30人となりました。

出典：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/000941499.pdf>

：昭和57年版犯罪白書 <https://hakusyo1.moj.go.jp/jp/23/nfm/mokuji.html>



画像：乾燥大麻

出典：厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/dl/taima.pdf>

## 第3章 | 大麻の今後

### 大麻の様々な利用から考える

今後の大麻の利用について、主に以下3つの可能性について議論する必要があります。

①繊維としての利用 ②医薬品としての利用 ③伝統としての継続

【繊維】繊維で使用される大麻は、ヘンプと表現されますが、一般的に『麻』は、植物から採取される繊維の総称です。そのため、衣服で使用されるリネンやラミー等は麻と表現されますが、大麻とは別の植物になります。大麻は、衣服だけでなくロープ等で繊維として利用されます。

【医薬品】嗜好目的で大麻を規制する国は多くあります。一方で、医薬品として大麻を合法としている国は多くあります。日本では医薬品として的大麻も規制されています。しかし、大麻が含有するTHCに着目した規制に見直す意見もあります。

【伝統】現在、日本においての大麻の利用は祭事や神事が主です。しかし、本来は大麻は身近で栽培され、利用されてきた植物です。大麻栽培の減少がこれ以上進んだ際に、大麻利用の伝統が消えてしまう可能性もあります。

また上記以外でも、種は油や七味唐辛子などの食料、最近では化粧品としても使われます。麻柄も盆行事の迎え火や祭りの松明等の伝統的な利用のみではなく、バイオプラスチック等の新しい利用もされています。

大麻を生物多様性という視点で見た際に、日本には本来存在しない生物です。人の営みとともに拡がり、社会の変化とともに規制され、再び注目されているのが大麻です。人と関わりの長い歴史を持つ大麻と今後どのように接していくかを考えることで、環境と文化の繋がりを考えるきっかけにしてみてください。

### 考えてみよう！

Q 1 . 大麻に関する過去の知恵と未来の課題はどのようなものがありましたか？

A. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Q 2 . 大麻には、さまざまな活用方法がありますが、あなたは大麻のどの活用に興味を持ちましたか？

A. \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Q 3 . ワークショップでは、大麻と人との関わりを学びました。SDGs(持続可能な開発目標)の17ゴールとのつながりをいくつ見つけることができましたか？



キーワード:

松明、伝統的な利用、衣服、ロープ、バイオプラスチック、医薬品、化粧品、食料、栽培者・栽培面積の減少、麻薬、規制、帰化植物、絶滅危惧種など

## 第4章 | ワークショップ開催報告 (2022年12月17日(土)10時00分～15時30分)

### 山王まつりと大麻について学ぼう

2022年12月17日、岐阜県安八郡神戸町において、「岐阜県神戸町の山王まつりから考える大麻の過去と未来」と題し、山王まつりの魅力を学ぶとともに大麻という植物の辿ってきた道と持続可能な活用を考えるワークショップを開催しました。

会場である日吉神社の社務所において、「大麻の利用から考える人と自然の共生」と題した講演をおこないました。講師は、山田一夫氏（日吉神社氏子総代会 会長）と若園和朗氏（日本麻協議会事務局代表）です。

山田氏からは、自身の祭りでの体験談、祭りの概要や歴史等を学ぶとともに実物の松明や麻幹を使った解説もありました。神輿を担ぐ際には、全力疾走で駆け抜けながら、担ぎ手の交代をおこないますが、最初は松明を担ぎながら並走し経験と勘を身に付けていき、やがて神輿を担ぐということです。また、麻柄が束ねられた松明の直径が以前は60cmもあったとの事でした。このような祭りに長年携わってこられたからこそその知見を聴くことができました。

若園氏からは、THCの含有量の低い大麻の活用について学びました。厚生労働省の大麻等の薬物対策のあり方検討会にも話題提供者としてご活躍の経験がある豊富な知見から、伝統的な植物である大麻への熱い想いを聴くことができました。日本において大麻は、生活の一部として活用されてきましたが、大麻の栽培者が減少し、世間における麻薬としての認識が広まることへの懸念を示されていました。

講演後は、日吉神社から参道の先にある御旅所までの神輿が通る道を辿りました。日吉神社での参拝や神輿の見学、渡御の際に渡る庄九郎川ではこの川が琵琶湖に見立てられているといった解説を聴きながら、講演で得た知見を実際に見て歩き体験をしました。



講演する山田氏



講演する若園氏



まち歩き体験

### 大麻についての討論しよう

討論のセッションでは、大麻の今後についての議論をしました。大麻を話題にした際には、「麻薬として的大麻」が付きまといまいます。多くのメディアでは、大麻の嗜好的な使用が有害か無害かの議論になります。本討論では、薬学の知識のある参加者による解説もあり、THCの脳への影響等の基礎的な知識を学ぶこともできました。また、討論では嗜好的な使用は有害であり、大麻の素材・医薬品としての未来に重きを置きました。

大麻のさまざまな活用がありますが、日本における栽培免許を所持している栽培者の責任は大きく、盗難や種子の管理といった管理負担があります。制度を変えて負担を減らすためにも、THC濃度の低い（またはTHCが含まれない）大麻の普及や開発が必要であり、栽培者同士の連携の強化等の意見がありました。



大麻についての討論